

7/27.3.3

横田PFA S漏出

防衛省の隠蔽判明

米軍側報告書入手していた

共産党議員ら聴取



横田基地のPFA S漏出について防衛省の担当者をただす（正面前列左から）平野、樋口、原、宮本、山添、吉良の各氏ら=25日、東京・参院議員会館

発がん性が指摘され漏出していた問題をめぐり、防衛省が2019年には米軍側から漏出事故の報告書を入手していたにもかかわらず、隠蔽（いんぺい）していた事実関係が25日、明らかになりました。

日本共産党の宮本徹衆院議員・東京比例候補、吉尾よしお、山添こと衆院東京18区候補、平野よしだか22区候補、原純子都議、関係市議らが行った聞き取りで、防衛省の担当者が報告書入手の事實を認めました。

また、これまで公表していた6件の漏出事故の他に、昨年6月にも消防剤が漏出していった事実を認めました。防衛省は「この時漏れた消防剤はPFASを含んでいない」と説明しました。防衛省は6月29日、

共産党議員・地方議員の聞き取りで、10～12年に3件のPFA S漏出があった事実を認めたものの、「事故の報告書を米側から入手したのか」と繰り返し質問されても、答えませんでした。しかし、防衛省は今

の聞き取りで「漏出について18年の報道を受け、19年1月に報告書を入手し米側に照会した」と回答。6月時点での説明が虚偽だったことが判明しました。宮本氏らが「隠蔽ではないか」と追及するところ、防衛省は「報告書はない」と述べました。防衛省は「報告書は速やかに提供すべきだった。反省を踏まえ対応する」と述べました。